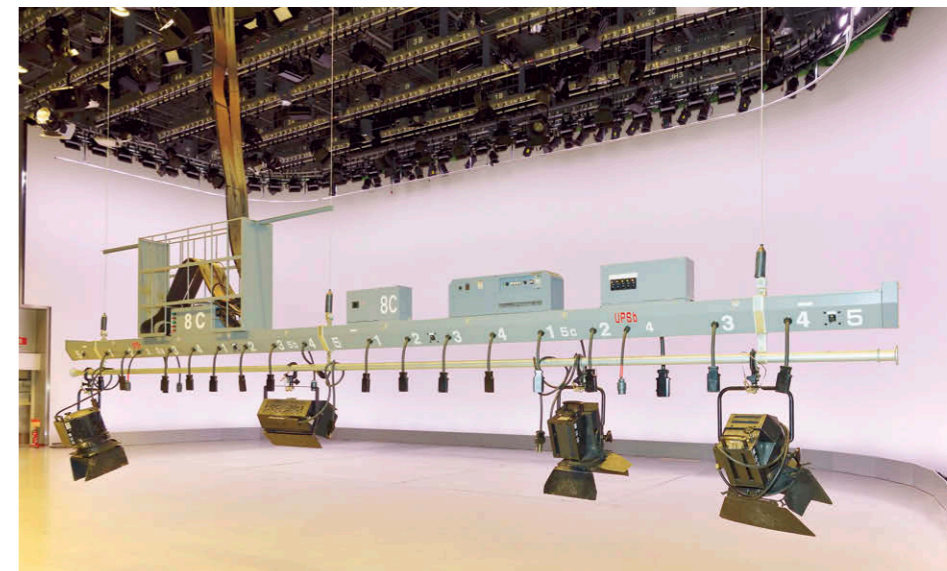


『カンテレ』の愛称で親しまれている関西テレビ放送が、各種イベントにも対応する「なんでもアリーナ」の照明設備を更新。フルカラーLED水平ライト、特別仕様の調光操作卓を導入し、さらに、将来のフルLED化に備えたインフラ設備の拡充を実施しています。

関西テレビ放送本社の1階に位置する「なんでもアリーナ」は、収容人数400人のイベントホールとしての機能と、テレビ番組の収録スタジオとしての機能を併せ持つ、在阪民放局有数の大型スタジオです。テレビ番組の収録はもちろん、記者発表や映画試写会、音楽イベントなどにも使用されるため、放送局のスタジオとしては珍しく、電動収納式の客席や迫り上げ舞台、テラスなどを備え、副調整室とは異なる「映写室」から照明をコントロールしています。



【物件概要】
所在地：大阪市北区扇町 2-1-7
スタジオ面積：666㎡
天井高：12.7m
ホリゾント高：9m
昇降舞台：12m×7m（昇降高さ90cm、9分割）
収容人数：400人（客席使用時）
施工：東芝エレクトロエンジニアリング（株）
リニューアル：2018年3月

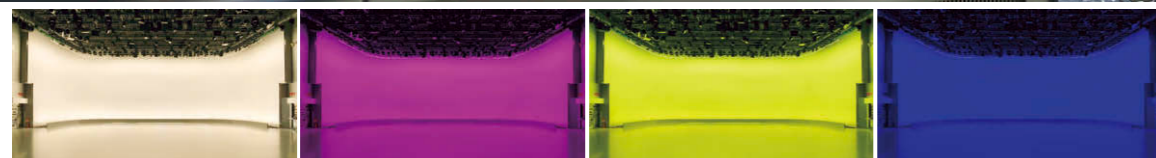


照明バトン フルLED化を見据えてDMXノード③やUPSなどを実装



⑤LEDアッパー水平ライト R,G,B,Wの4色で多彩な色表現が可能

③DMXノード DMXコネクターを4口配置



フルカラーLED水平ライトによる調色例

細部までこだわった照明インフラの整備により、フレキシブルな照明操作が可能。

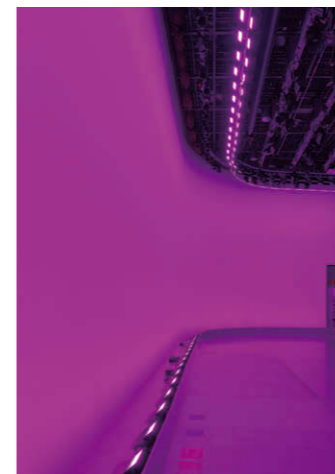
今回の更新工事は、調光装置の老朽化に伴うもので、主に、調光操作卓・調光主幹盤・調光器盤を更新、省エネと演出効果の向上を目的とした水平ライトのLED化、さらに、将来のフルLED化に向けたインフラ整備として、負荷回路（直/調切換回路）の充実やイーサネット*の設備を実施しています。

映写室の調光操作卓は、既設卓の使い勝手をベースに機能を向上。ベルトエンコーダーを実装し、制御チャンネル2048ch、4ユニバースによる多チャンネル制御を可能にしています。また、小型化、多機能

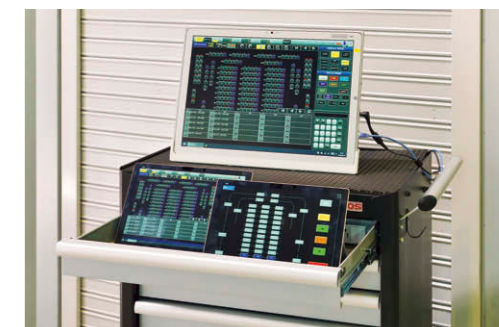
化したワイヤレス操作器をはじめ、バーチャル操作器、テラスのサブ操作卓なども充実。無線通信環境はもちろん、有線接続用コネクターも各所に配置し、スタジオの使用目的、演出意図に合わせて、フレキシブルな操作環境を整えています。各照明バトンには、ハイブリッド調光器を2回路配置し、従来のハコゲン器具を使用しながら将来のフルLED化にも対応できるインフラ設備としています。

また、1ボタンあたり4口のDMXコネクターを備え、多チャンネルで多様なLED器具の使用が可能となりました。

①調光操作卓 既設卓の使い勝手をベースに機能を向上させた特別仕様



⑥LED水平ライト（水平中央部より上手側）



②ワイヤレス操作器④バーチャル操作器 タブレット型の操作器により調光、ボタン昇降が可能

主な掲載器具一覧				
設置場所	器具名 (品名)	形名	台数	備考
映写室	①調光操作卓(特別仕様)	-	1	プリセットエンコーダー 60本+バーチャルフェーダー 60本、サブマスタ 20本(制御300本)、仕込記入手描きPC×1台、RDM設定監視PC×1台、回路制御タッチパネル 27型×1、LIVE画面 20型×1、制御チャンネル:2048ch
スタジオ	②ワイヤレス操作器	-	2	タブレット型 調光1台、昇降1台
	③DMXノード(RDM/DMX 4port)	-	62	ボタン実装 51台、フロア実装 9台、可搬型 2台
	④バーチャル操作卓	-	1	無線/有線 20型タブレット
	⑤LEDアッパー水平ライト	AL-LED-UH-4 W-C	88	消費電力:140W
	⑥LEDアール水平ライト	AL-LED-LH-4 W	48	消費電力:140W